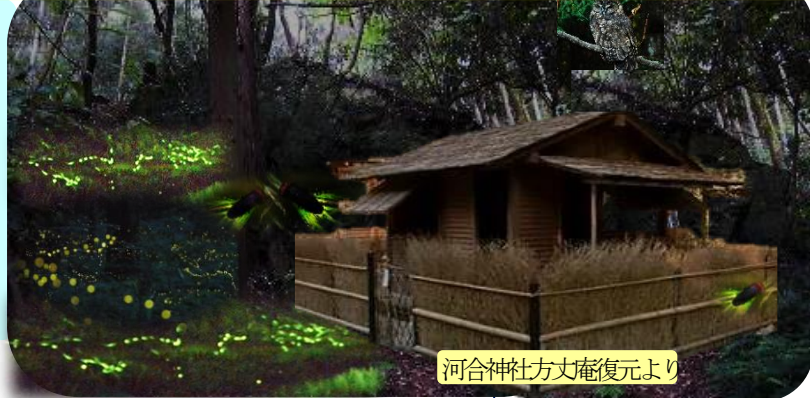


これからのことを…4の(6)

●方丈記から(その6)



河合神社方丈庵復元より

草庵での生活は

長明は54歳で、この草庵を自分で組み立て、日野での生活を始めた。そこで山守の子どもの10歳の少年と仲良くなって、時々連れ立って山の中を歩いては木の実や芹を採ったりした。時には峰によじ登って、はるか懐かしいふるさとや景勝地を眺め、時には琵琶湖辺りまで山道を、遠出をした。また、ひとり、誰にも遠慮することなく琵琶を弾く。琵琶の師中原有安から「管絃の道につけて跡継ぐべき者」と。腕前は相当なものだったらしい。

『もし、夜、静かなれば、

窓の月に故人をしのび、猿の声に袖をうるほす。草むらの蛍は、遠く槇の篝火にまがひ、暁の雨は、おのづから木の葉吹く嵐に似たり。山鳥のほ

ろとなくを聞きても、父か母かと疑ひ、峰の鹿の近くなれたるにつけても、世に遠ざかるほどを知る』

月の美しく冴えわたった夜には、昔の友だちのことを思い出し、猿の泣き声から

涙が目に浮かぶことも。草むらの蛍の灯はまるで槇島のかがり火ではないかと思われ、自分の淋しい心を慰めてくれる。また、ほろほろと鳴く野の鳥の声を聞き、父母を思いだす。山深く住む鹿などが慣れ慣れしくやってくると自分がどれだけ俗世から遠く離れていることかと思う、と。

『或はまた、埋み火をかきおこして、老の寝覚の友とす。おそろしき山ならねば、ふくろふの声をあはれむにつけても、山中の景気、折につけて、尽くる事なし。いはむや、深く思ひ、深く知らむ人のためには、これにしも限るべからず』

眠れない時炭火をかきおこして暖まるのが

楽しみである。山中は春夏秋冬それぞれに面白みがあって尽きることがない。

自分よりもっと内省深く、知覚鋭い人ならもっと面白みを発見できるであろうと長明は書く。こうして、長明はこ

の草庵で5年の時を経た。ここでの生活は充実していて、楽しく、居心地が良かった。

時が前後しますが

長明47歳、時の最高権力者の後鳥羽院から錚々たる歌人たちに交じって、和歌所の寄人に拔擢された。「新古今集」の編纂の仕事だった。嬉しくて昼夜なく励んだ。後鳥羽院が長明の仕事ぶりから、空きのあつた河合神社の神職を与えようとする、長明は亡き父が歩んだ道と思い、涙を流して喜んだようだ。

ところが、同族からの強い反対があり、かなわず。そして、その寄人の職まで投げうって長明50歳は出奔、大原に。その原因が同族との関係ではないかと。

実は父の死の長明10代後半頃から、この世との不適合感をいだいていたという。多分筆者が勝手に思ってしまうのは父の死で周りからの待遇が変わってきたのではないかと。それに追い打ちをかけるように、30歳頃まで住んでいた父方の祖母の家は女郎花がきれい、相当大きな邸宅だったというが、そこから自分の意志ではなく、出て行かなくてはならなくなった。これも同族の可能性が。

そして今回の河合社神官事件。

長明は23歳から31歳くらいに5大災厄を経験して、被災現場をくまなく歩いていた。

長明の意志

800年以上も前に生きた長明の気持ちを讀み取ることは難しいけれど、出家という方法を何故長明はとったのか。

河合社の神職こなれなかつたからというより、本当は父の通つた道を継ぎたかっただけなのに。それを妨害する同族の者に対して憤って、怨む自分を小さい者と考へたのではないかと。そう考へたら納得がいく。

佐藤春夫「鴨長明と西行法師」の中にもそのことが書かれていて、筆者は讀んで讀んだ。「浅はかな人間の欲望を捨て浮世を逃れて隠遁者となつて山の中に住むという気持ちが事毎に



育つていって、この神官事件を機会に実現する決心がついた」「自分の心を悩ます家屋敷や社会的地位という世俗の觀念に心を煩わすという愚かな

心の囚われから逃れたい」「そのことを一途にどこまでも押し通して1つの人生觀としての道を求めたのが長明の一生である」と。

大きな家から退出しなくてはならなかつたことを、いつまでもうじうじ思つては駄目だと。そして徹底したまでの住居・方丈庵を。今長明は山中で伸び伸びと暮らしている。

体を動かすことは体の養生

『今、一身を分ちて、二つの用をなす。手の奴、足の乗り物、よく我が心にかなへり。身、心の苦しみを知れば、苦しむ時は休めつ、まめなれば使ふ。使ふとても、たびたびすぐさず。物憂しとても、心うごかす事なし。いかにいはいむや、つねに歩き、つねにはたらくは、養生なるべし。なんぞ、いたづらに休みをらん。人を悩ます、罪業なり。いかに、他の力をかるべき。』

(訳・今我が一身を分けて二つの用をなす。手の奴、足の乗り物、大変によく、我が心にかなっている。身は心の苦しみをよくわかっているから、苦しむ時は休ませるし、元気であれば、使う。使うといつても、たびたび度をこして、使い過ぎることはしない。疲れているからといって休んだとしても、心をあれこれ悩ますこともない。いわんや、常に体を動かすことは体の養生になるのである。どうして、むだに休んでいられようか。人をわずらわすのは罪業である。どうして人の力をかりられようか。)

当時貴族たちは自分で歩く、自分で動くというのは下賤な振る舞

裏面右下へ

八幡まるごと館だより

2020年12月2日/133号

<発行>八幡まるごと館/八幡市男山松里12-20
(TEL&FAX) 075-983-3664(9時~17時)

(E-MAIL) yawata@marugotokan.net
ホームページは <http://marugotokan.net/>
又は、八幡まるごと館で検索して下さい



八幡まるごと館は街行く人のだれもが自由に立ち寄れる“地域サロン”です。休館日は毎週火曜日全日と土・日午後です。

＜11月にこんなことをしました＞

(出来上がった作品は下面に)



パッチワーク

5日 西角千代子さんに教えていただき、この日には全員完成。初めての方が時間がかかりましたが、

年明けにポシュエトをという意気込みが。西角さん前川さん吉田さんありがとうございました。



オカリひまわり



絵手紙講習会

11日 森本玲子さんから来年の6月以降に文化センターミニギャラリーでの展示のお話が。またコロナ

感染増加で以前来られた方々の参加が望めないですが。気をつけて続けることが館のあり方かなど。

八幡の歴史



19日 戦国時代は下剋上で10代から14代の室町将軍は流亡失意の中で亡くなったそう。その

八幡宮の金銅樋の所では、男山考古録からの資料を。中々ひとりでは読み取れません。

理科の実験



25日 センタクローとは足で受けとめ合うバレーボール。木下章司さん材料を用意して下さい。宮地さんはアシスタントを。理科との関係は？炭素原子Cが60個集まったらサッカーボールの形になるそうでそれをフラーレンC60というそうです。その形の建物

を作った人の名前前から。大きさはとても小さいナノ(1/1000³mm)今回はC20をひとり2個作りました。今回はこの形を利用してサッカーボールC60を作りました。初めは障子紙で、ハサミもいれるので切れないように。準備が肝心で折り目をきち

折り紙教室 27日 出口宏子さんは1枚の紙で9羽の鶴を作って来られ、それを教えて下さい

とつけたら後が楽です。慣れるまで悪戦苦闘でしたが、今回はお正月用の本番連鶴です。



リース



28日 参加者は例年になく少なかったのですが、お一人お一人個性あるリースが。材料

は何人もの方が集めて下さって、この10年間取り組めてきました。来年からは場所、器具の提供を致します。

八幡まるごと館 12月・1月の予定 休館 12月27日(日)～1月7日(木)

＜パソコン教室＞ 毎週月曜日 10時～12時です
12月7日(月)10時～12時 参加費 300円(コーヒーつき) パソコンを持って来て下さい。12月14日で年内は終わり 21日はお休みです。

＜オカリクラフ ひまわり＞ 楽しめる時に
12月7日(月)13時～ 参加費 100円 今年最終は12月14日です。 21日はお休みです

＜絵手紙講習会＞
12月9日(水)13時30分～ 講師 森本玲子さん参加費 400円(コーヒーつき)
次回は1月13日(水)です

＜折り紙教室 第16回＞ 連鶴3回目 どうぞお楽しみに。
12月11日(金)13時30分～ 講師 出口宏子さん 参加費材料代は100円
持ち物 ハサミをお忘れなく

＜歴史を学ぶ 新八幡の歴史 N026＞
12月17日(木)13時30分～ 講師出口修さん 参加費 100円 月1回です

＜今年度最終野菜市& 食事はしません
12月26日(土)9時～お正月用野菜販売 今年はこの日で終わりです

＜まるごと館納め＞ 野菜市の後、1年間使用したまるごと館を片づけ、掃除をします。お忙しいとは存じますが、ご参加下さいますようよろしくお願い致します。

＜まるごと館開き＞
1月8日(金) 新しい2021年の始まりです。野菜販売も通常通りです

＜楽しい理科の実験 N037＞ サッカーボールを作ります 参加費 300円(コーヒーつき)
ここに続きます 1月27日(水)13時30分～講師木下章司さん

いと考えていた。当時の貴族が方丈記を読んでも理解が出来なかつただろうと解説に。

800年も前に「動くことが養生である」と。そして、藤や葛などの繊維で織った粗末な衣、麻布で作った寝具を用い、食べ物も野辺のつばなや峰の岩梨の実で命をつなぐ生活を。時々都に出て托鉢をして乞食坊主になって恥ずかしいと思う時があるけれど、この庵に帰って来ると逆に俗世

の人が哀れになってくるという。多くの人が浮世の名声や利益に執着して暮らしているから。ただ、この部分だけは長明が意固地になり過ぎて、もっと融通性があってもと思われる人も。

*いつも読みにくい文で恥ずかしいですが、方丈記まだ続きます。長明が生きていたら、今のコロナ対応に何と云うか、いつか書けたらと。色々なことが出来ない状態が続きますが、元気でいませうね。(うえたにじゅんこ)

